★★★★ 文学国語 授業プリント ～ 物語のおわり ～ ★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　一

心情を読み取るポイント

①登場人物の人物像（背景・性格・考え方）や、置かれている状況

②契機（出来事・事実）

③登場人物の心情・思考

④登場人物の表情・態度・行動・会話（象徴・情景描写）

◎今回大事なのは①です。「僕（＝拓真）」や「絵美」がどんな状況であるのかを整理しながら読んでいきましょう。

単元目標

・登場人物の心情変化を理解できる。

・ChatGPTが生成した『空の彼方』のおわりをうまく推敲できる。

○今の自分を振り返ろう！

・登場人物の心情変化を読み取ることが得意ですか。

得意（ 3 ・ 2 ・ 1 ）得意でない

・推敲は得意ですか。

得意（ 3 ・ 2 ・ 1 ）得意でない

○初読の感想や疑問点などを書こう。（　　月　　日）

○学習後の感想、疑問点の解消、新しく知ったことやできるようになったことを箇条書きで三つ以上書こう。（　　月　　日）

○目標達成度

・『空の彼方』を読む前と最後の場面とで「僕」の心情がどのように変化したのかを理解できた。

できた（ 3 ・ 2 ・ 1 ）できなかった

・「推敲ポイント」を意識して、ChatGPTが生成した『空の彼方』のおわりを推敲することができた。

できた（ 3 ・ 2 ・ 1 ）できなかった

★★★★ 文学国語 授業プリント ～ 物語のおわり ～ ★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　二

○教科書224ページ～227ページを読んで、問題に答えましょう。

1★「僕（＝拓真）」はかまぼこ工場を継ぐことについて、したいと思っていますか。したくないと思っていますか。

2★「絵美の姿に自分と重なるところがあった（226ページ9行目）」とありますが、どのような点で二人は重なるのですか。

3「切羽詰まっているわけではない（227ページ5行目）」について、

i「切羽詰ま(る)」の意味を調べて書いてください。

ii★絵美のどのような状況を言ったものですか。

↓……そこが、絵美と僕との違いだ。

★★★★ 文学国語 授業プリント ～ 物語のおわり ～ ★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　三

○教科書228ページ1行目～230ページ6行目を読んで、問題に答えましょう。

1★次の文は、「そのうえ、僕は末っ子だ。一緒に暮らしてもいないし、看病できる距離にも住んでいない（228ページ7行目）という二文について説明したものです。空欄に入る言葉をそれぞれ書いてください。

この二文は、【　①　】ことの理由としてあげられたものであり、【　②　】ということに添加されたものである。

①

②

2「兄」「姉」「母」がかまぼこ工場の仕事ができないのは、どうしてですか。

兄

姉

母

3「僕はもっとはっきりと自己主張できていた（229ページ12行目）」とありますが、ここでの「自己主張」の内容はどんなものですか。

4「前者（230ページ1行目）」とは何のことですか。

★★★★ 文学国語 授業プリント ～ 物語のおわり ～ ★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　四

○教科書230ページ7行目～233ページ8行目を読んで、問題に答えましょう。

1★「こんな状況（230ページ7行目）」とは、どのような状況ですか。

2「どうにも絵美は作家として成功する気がしない（230ページ8行目）」と「僕」が考えるのはなぜですか。

3★「……僕もそう思わなかったか？（231ページ10行目）」とありますが、「僕」はどう思ったというのですか。

4「人柱にされる（231ページ11行目）」とは、どういう意味ですか。

5★もしあなたが「こんな状況（230ページ7行目）」にいたとしたら、どのように行動しますか。

★★★★ 文学国語 授業プリント ～ 物語のおわり ～ ★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　五

○教科書230ページ7行目～233ページ8行目を読んで、問題に答えましょう。

1「駅までやって来た絵美だったが、婚約者とともに家へと帰る（233ページ9行目）」について、

一　絵美はなぜ「婚約者とともに家へと帰る」（233ページ9行目）のですか。

ア　両親を見捨てて遠くへ旅立つことは悲しく耐えがたいと思ったから。

イ　自分はまだどうしても書きたい物語を持ってはいないと思ったから。

ウ　自分に作家になるほどの才能はないのではないかと不安になったから。

エ　婚約者を裏切って遠くへ旅立つことは倫理的に許されないと思ったから。

二★「僕（＝拓真）」がこのようなオチにしたのは、絵美にはどのような時間が必要だと思ったからですか。

3　絵美が「貪欲さ（233ページ11行目）」を持つためには、まずどうすることが必要だと拓真は考えているのでしょうか。

4★『空の彼方』を読む前と、読んだ後に「紙束を置き、カメラを手にとった（234ページ15行目）」ときとで、「僕」の心情はどのように変化しましたか。

『空の彼方』を読む前は、

しかし、『空の彼方』を読んだ後に「紙束を置き、カメラを手にとった」ときは、

★★★★　文学国語　授業プリント　～　物語のおわり　～　★★★★

君がもし、この小説を完結させるとしたら　六

★『物語のおわり』という小説は、『空の彼方』という小説を複数の登場人物が読んで、それぞれが『空の彼方』の結末を書くというリレー形式のお話です。本文にある結末以外にも、様々な結末が考えられます。

今日やること

○ChatGPTが書いた『空の彼方』の結末を推敲しましょう。この単元での推敲は、文章の内容が、読者にうまく伝わるように書き直すこととします。「推敲ポイント」を意識して、推敲しましょう。

推敲ポイント

ステップ1（まずは、通読しましょう）
①『空の彼方』の前半部分（225ページ13行目～226ページ7行目）の内容に基づいていない記述に線を引き、直す。もしくは、基づいていないと考える理由を書く。
②表現・表記の間違いに線を引き、直す。

ステップ2（表現を工夫しましょう）
①よりよい表現があれば線を引き、直す。
②話を挿入するなどして、内容が飛躍している箇所を直す。

あらすじ　絵美は東京に行くことを諦めて地元でパン屋を営みながら、作家の活動もはじめ、作家として成功する

夕暮れの光が町を包み込む中、絵美と婚約者の間には緊張が立ち込めていた。

「絵美、君が東京に行くこと、本当に考えてみたのかい？」

絵美はしばらく黙って、空を見上げた。その間、町の喧噪と穏やかな風が交錯している。

「でも、私、小説を書きたいの。」

「それは分かるけど、でも家族もお店もあるんだよ。君が行ったら…」

「私だって分かってる。でも、このままじゃ夢を追うことができない。」

婚約者は深い溜息をついて、絵美の肩に手を置いた。

「君の夢は大切だよ。でも、夢と現実は両立することもある。」

「でも…」

「俺たちで協力し合って、一緒に未来を切り開こう。君が幸せなら、それが俺の幸せだから。」

絵美の瞳には涙が宿っていた。優しく微笑む婚約者に、絵美は頷いた。

「ありがとう、君。私たちで一緒に頑張ろう。」

そうして、絵美は東京への旅立ちを諦め、地元のパン屋での生活を再び選びました。

新しい一日が始まる中、絵美は店の前で小説のノートを手にしていた。挫折した夢を諦めることなく、地元の風景や人々の物語を綴り始めるのだ。

（心の中で）「小説を書くことができれば、東京じゃなくてもいいんだ。」

彼女の手がノートに触れる瞬間、村の住民たちが朝の挨拶を交わしにやってきた。

「絵美ちゃん、おはよう。今日も美味しいパンを作ってくれるのかしら？」

「もちろんですよ。新しいレシピも考えています。」

その笑顔は、地元の人々を和ませ、パン屋が一層賑やかになる原動力となった。

翌日、町の人たちは絵美のパン屋に集まり、新作のパンを試食しました。

「絵美さん、これすごく美味しい！」

「なかなかやるじゃないか、絵美ちゃん。」

「ありがとうございます。これからも新しい味を提供していきますね。」

一方で、絵美は店を閉めた後、夢を諦めないでいいのか、迷いながらも執筆を再開しました。

（ノートに向かって）「夢を追い求めることは素敵だけど、今の生活も大切にしなくちゃ。」

村の中の小道を歩きながら、彼女は住民たちの笑顔や街の風景を感じながら小説を進めていきました。

ある日、町の書店で絵美の小説が目に留まった書店員が声をかけます。

「これ、地元の作家さんの作品なんだってね。」

「ほんとうに？」

「そう、評判も上々で、東京の出版社が注目しているんだよ。」

その情報が口コミとなり、絵美の小説は町の人々から支持を受け始めました。

「絵美さん、すごいね。東京に行かなくても、地元で成功できるんだね。」

「ありがとう。これも地元のみんなのおかげだよ。」

村の中の小さな本屋に、絵美の小説が並び始めたことで、彼女の名声は着実に広がっていきました。

その後、地元新聞の取材を受け、絵美の物語は町の誇りとなりました。

町のモットーは「小さな場所から大きな夢が広がる」。絵美は村の誇りとして、夢を追い求めることができ、同時に地元の暖かいコミュニティを築いていったのでした。

絵美の小説は次第に広く評価され、地元だけでなく他の地域にも知れ渡りました。

出版社からのオファーも舞い込み、地元の小さな書店から全国の書店に彼女の作品が並ぶようになりました。

ある日、再び松木流星が現れ、彼女を訪ねてきます。

「君の小説を読んだよ。すごい才能があるね。」

「ありがとうございます。でも、東京に行くことは諦めたんです。」

「場所は大切じゃない。才能があるなら、どこにいても輝ける。」

その言葉に心打たれた絵美は、再び東京に行くことを決意します。

「ありがとう、師匠。でも、地元の人たちと一緒にいたい気持ちもあるんです。」

「それは大切なことだ。でも、君の可能性を追求するのも良いことだよ。」

絵美は、地元で愛されるパン屋としての生活と、作家としての活動を両立させ、新たな人間関係や経験を得ながら、ますます成長していきました。

ある日、絵美は町の子供たちに小説のワークショップを開くことにしました。

「夢を諦めないで、自分の想像力を信じてみて。」

子供たちが楽しそうに物語を作り始める中、絵美は自身の経験を通じて、地元コミュニティに夢を広げる一翼を担っていたのでした。

絵美の物語は、小さな町から広がり、新たな冒険と可能性が詰まった章が続いていきました。

『空の彼方』の前半部分の内容に基づいていない記述に線を引き、推敲できている。もしくは、推敲した理由が書けている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
表現・表記の間違いに線を引き、推敲できている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
自分が気付かなかった点を書こう。	

『空の彼方』の前半部分の内容に基づいていない記述に線を引き、推敲できている。もしくは、推敲した理由が書けている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
表現・表記の間違いに線を引き、推敲できている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
自分が気付かなかった点を書こう。	

『空の彼方』の前半部分の内容に基づいていない記述に線を引き、推敲できている。もしくは、推敲した理由が書けている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
表現・表記の間違いに線を引き、推敲できている。	できている（　３　・　２　・　１　）できていない
自分が気付かなかった点を書こう。	